

様式3

公立大学法人静岡文化芸術大学

令和3事業年度に係る業務の実績に関する評価結果

令和4年8月

静岡県公立大学法人評価委員会

第1 公立大学法人静岡文化芸術大学の令和3事業年度における業務実績評価について

静岡県公立大学法人評価委員会は、「静岡県が設立する公立大学法人に係る評価基本方針」(H19.12.5制定)に基づき、令和3事業年度の業務の実績に関する評価を行った。

1 評価に当たっての基本的な考え方

- (1) 評価を通じて、大学の教育研究及び法人運営の進捗状況等を分かりやすく示し、県民への説明責任を果たしていくものとする。
- (2) 法人の教育研究並びに組織及び運営についての様々な工夫や特色ある取組を積極的に評価するものとする。
- (3) 次期中期目標・中期計画、法人の組織及び業務運営の見直しの検討に資するものとする。

2 評価方法

- (1) 年度評価は、「全体評価」と「項目別評価」により行った。
- (2) 「全体評価」は、(3)の項目別評価を踏まえるとともに、当該年度の重点的な取組や法人の特性等に配慮しつつ、中期目標・中期計画の全体的な進捗状況を総合的に判断した。
- (3) 「項目別評価」は、法人による自己点検・評価の結果を基に、当該年度計画に定めた項目ごと、年度計画設定の妥当性も含めて総合的に検証を行い、中期目標・中期計画の達成に向けた進捗状況を確認した上で、「大学の教育研究等の質の向上に関する目標」、「法人の経営に関する目標」、「自己点検・評価及び情報の提供に関する目標」及び「その他業務運営に関する重要目標」の4つの目標別に総合的に検証した。

第2 全体評価

1 評価結果と判断理由

(1) 評価結果

公立大学法人静岡文化芸術大学（以下「法人」という。）の令和3年度の業務実績に関しては、全体として「**中期目標・中期計画の達成に向けて順調に進んでいる**」と評価する。

(2) 判断理由

法人は、静岡文化芸術大学が、豊かな人間性と的確な時代認識や社会認識を持ち、国際社会の様々な分野で活躍できる人材の育成と、“開かれた大学”として地域社会や国際社会の発展への貢献に取り組むよう計画を策定し、遂行している。

第2期中期目標期間の最終年度である令和3年度は、昨年度に実施した当評価委員会の評価において意見した事項の改善に努めながら、学生支援の充実やICTを活用したグローバル教育の展開など、第2期中期計画及び年度計画の達成に向け、教職員を挙げて取り組み、着実に成果を上げた1年となった。

法人の中期目標・中期計画の達成に向けた業務の進捗状況について、「第3項目別評価」のとおり、「**大学の教育研究等の質の向上に関する目標**」、「**法人の経営に関する目標**」、「**自己点検・評価及び情報の提供に関する目標**」及び「**その他業務運営に関する重要目標**」の全ての項目について、「**中期目標・中期計画の達成に向けて順調に進んでいる**」と認められ、これらの状況と令和3年度の重点的な取組や法人の特性等を総合的に勘案し、(1)のとおりの評価が相当と判断した。

(3) 令和3年度の重点的な取組

ア 多様な学生の修学支援について

悩みを抱える学生が自習室や休憩室として利用できる**学生支援ルームの新設**や、**精神科医相談日の開設**を行った。また、学生相談室カウンセラーに対して専門的な指導や助言を行う、スーパーバイザー及び精神科医を配置して、多様な学生の支援体制を強化した。(No. 7、47)

イ 効果的な入試広報の展開について

高校教員を対象とした、対面でのオープンキャンパスや県内外5会場での説明会・相談会を開催した。また、高校生や高校教員向けのオンライン相談会を計14日間にわたり実施したほか、オープンキャンパスをYouTubeのライブ配信で開催するなど、**対面とオンラインを効果的に組み合わせ**て大学の魅力を発信し、志願倍率の向上を図った。(No. 9、11)

ウ ICTを活用したグローバル教育の実施について

海外との往来が困難な状況で、新たに3校の海外大学と交流協定を締結した。トルコ及びポーランドの大学とのオンラインによる産学協同国際デザインワークショップ、インドネシアの大学との国際共同オンライン学習（COIL）や学生の調査の相互協力、ブラジルのジャパンハウスと共同したオンライン海外インターンシップ等、コロナ禍において実体のあるグローバル教育を積極的に実現した。（No. 79、86、93、94）

2 評価に当たっての意見、指摘等

- 令和4年度から第3期中期目標期間が始まったことから、第2期の実績と評価を踏まえ、地域社会及び国際社会と共に進化していく大学として、更に発展的な大学運営を行っていくことを期待する。今後の課題とした項目については、全学で課題意識を共有し、実効性ある対策を着実に実行されたい。

[参考]項目別評価の結果

1 大学の教育研究等の質の向上に関する目標	I 特筆すべき進捗状況	II 順調に進んでいる	III おおむね順調に進んでいる	IV やや遅れている	V 重大な改善事項がある
2 法人の経営に関する目標	I 特筆すべき進捗状況	II 順調に進んでいる	III おおむね順調に進んでいる	IV やや遅れている	V 重大な改善事項がある
3 自己点検・評価及び情報の提供に関する目標	I 特筆すべき進捗状況	II 順調に進んでいる	III おおむね順調に進んでいる	IV やや遅れている	V 重大な改善事項がある
4 その他業務運営に関する重要目標	I 特筆すべき進捗状況	II 順調に進んでいる	III おおむね順調に進んでいる	IV やや遅れている	V 重大な改善事項がある

第3 項目別評価

I 大学の教育研究等の質の向上に関する目標

1 評価結果と判断理由

(1) 評価結果

大学の教育研究等の質の向上に関する目標の進捗状況は、「中期目標・中期計画の達成に向けて順調に進んでいる」と評価する。

(2) 判断理由

大学の教育研究等の質の向上に関する目標について、当評価委員会が検証した結果、年度計画記載の96項目中7項目が「計画を上回って実施している」、88項目が「計画を十分に実施している」と認められ、これらの状況等を総合的に勘案し、(1)のとおりの評価に相当すると判断した。

(3) 特に評価する項目

- ・ 留学生ガイダンスを毎月開催し、学生生活の支援と留学生同士の相互交流を促進するとともに、留学生と日本人学生が互いの母国語や文化を教え合う語学パートナー制度を導入した結果、留学生の就職活動の成功に結びつくなどの成果を上げた。(No. 46)
- ・ 数年に及ぶコロナ禍で様々な教育研究活動が中止又は変更された結果として発生した剰余金等を活用し、学生のクラブ活動への費用助成、混雑時間帯を避けた学食の割引制度の拡充、学内で食事が取れる場所の増設など、学生の福利厚生に資する取組を実施した。(No. 50)
- ・ 浜松市と連携した継続的なフェアトレード運動が評価され、アジア初のフェアトレード大学の認定が更新されたほか、地域連携演習や自主課題演習などの教育活動を通じて、学生が主体的に遠州地域の魅力発信や伝統文化の再発見などに取り組み、地域社会への寄与を図った。(No. 77)
- ・ 英語及び中国語のオンライン語学研修のプログラムの充実と広報活動を行い、受講者数を大幅に増加させた。受講者への奨学金の給付、外部検定試験料の補助、受講後の実施報告会の開催などを通じて、学生の語学能力向上を支援した。(No. 86、88、90)
- ・ 大学 Web サイトに掲載している留学受入情報の一元的表示、英文 Web サイトの拡充、日本語教育の専任教員の増員など、今後の外国人留学生の増加に向けた取組を実施した。(No. 86、91、92)

(4) 課題とする項目

- 文化政策研究科の入学者数が更に減少したため、訴求力ある情報発信や教育の内容及び体制の改善などを速やかに行われたい。併せて、入学者数が定員を上回っているデザイン研究科の**適正な定員管理**も含め、**両研究科の抜本的な見直し**を加速させる必要がある。(No. 8)

2 評価に当たっての意見、指摘等

- 開講3年目を迎えた文明観光学コース及び匠領域において、3年次の演習やゼミを予定どおり実施し、地域と連携した教育活動を展開した。令和4年度末には初めて卒業生を輩出することから、教育課程の運用状況を検証して更なる向上につなげるとともに、**広く成果を発信**されたい。(No. 16-2、16-3)
- 継続的な授業アンケートに加え、適時に行う複数のアンケート調査や常設の意見収集フォームにより、学生が抱えている課題の把握に努めている。**学生の意見を反映した具体的な改善策の実施**などアンケートや調査の回答率の向上に向けた**好循環**を創出されたい。(No. 36、49)
- 科学研究費補助金への応募は、外部資金獲得による自己収入の増加のためだけではなく、組織全体の研究力向上の観点からも、**応募する教員の割合を増やす**よう一層取り組まれたい。(No. 70、71)
- 多文化・多言語研究センターが中心となって、**地域の特長を活用した多文化共生を推進**するとともに、**語学教育にとどまらないグローバル教育**を学内外で展開することを期待する。(No. 84)

[参考]小項目評価の集計結果

	評価対象 項目数	A 計画を 上回って実施	B 計画を 十分に実施	C 計画を十分には 実施していない	D 計画を 大幅に下回る
1 教育	46	2	43	1	0
2 学生支援	19	3	16	0	0
3 研究	11	0	11	0	0
4 地域貢献	11	0	11	0	0
5 グローバル化	9	2	7	0	0
合計	96	7 (7.3%)	88 (91.7%)	1 (1.0%)	0

II 法人の経営に関する目標

1 評価結果と判断理由

(1) 評価結果

法人の経営に関する目標の進捗状況は、「中期目標・中期計画の達成に向けて順調に進んでいる」と評価する。

(2) 判断理由

法人の経営に関する目標について、当評価委員会が検証した結果、年度計画記載の24項目中24項目全てが「計画を十分に実施している」と認められ、これらの状況等を総合的に勘案し、(1)のとおりの評価に相当すると判断した。

(3) 特に評価する項目

- ・ 職員の時差勤務の時間帯の拡大や在宅勤務の実施、時間外管理システム活用による業務量の柔軟な調整など、ワーク・ライフ・バランスの推進に努めた。(No. 97、101)
- ・ コロナ禍を契機とする印刷物全般の電子化、LMS（学習管理システム）等の学内システムの利活用方法の改善により、経費節減と業務の効率化を図った。(No. 108、110)

2 評価に当たっての意見、指摘等

- ・ 新型コロナウイルス感染症の影響で停滞している共同研究・受託事業等の外部資金の獲得件数等を再び増加させ、また、寄付金の安定的な受入を推進するため、組織的な取組の更なる強化を期待する。(No. 113)

[参考]小項目評価の集計結果

	評価対象 項目数	A 計画を 上回って実施	B 計画を 十分に実施	C 計画を十分には 実施していない	D 計画を 大幅に下回る
1 業務運営	18	0	18	0	0
2 財務内容改善	6	0	6	0	0
合計	24	0	24 (100.0%)	0	0

Ⅲ 自己点検・評価及び情報の提供に関する目標

1 評価結果と判断理由

(1) 評価結果

自己点検・評価及び情報の提供に関する目標の進捗状況は、「中期目標・中期計画の達成に向けて順調に進んでいる」と評価する。

(2) 判断理由

自己点検・評価及び情報の提供に関する目標について、当評価委員会が検証した結果、年度計画記載の6項目全てが「計画を十分に実施している」と認められ、これらの状況等を総合的に勘案し、(1)のとおりの評価に相当すると判断した。

(3) 特に評価する項目

- 令和4年度に予定する外部認証評価機関による認証評価の受審に向け、6年に1度の全学的な自己点検評価を実施した。(No. 119)
- 新たなプレスリリースサービス業者と契約し、各種メディアへの積極的な情報提供を行った。学生記者からの投稿記事等をSNSで発信し、フォロワーを増加させたほか、今後の適正なSNS活用のため、SNS運用ポリシーを策定した。(No. 122、123)

[参考]小項目評価の集計結果

	評価対象 項目数	A 計画を 上回って実施	B 計画を 十分に実施	C 計画を十分には 実施していない	D 計画を 大幅に下回る
1 自己点検・ 評価	1	0	1	0	0
2 情報公開・ 広報充実	5	0	5	0	0
合 計	6	0	6 (100.0%)	0	0

IV その他業務運営に関する重要目標

1 評価結果と判断理由

(1) 評価結果

その他業務運営に関する重要目標の進捗状況は、「中期目標・中期計画の達成に向けて順調に進んでいる」と評価する。

(2) 判断理由

その他業務運営に関する重要目標について、当評価委員会が検証した結果、年度計画記載の16項目中15項目が「計画を十分に実施している」と認められ、これらの状況等を総合的に勘案し、(1)のとおりの評価に相当すると判断した。

(3) 特に評価する項目

- 学内ネットワーク機器の整備計画を作成するとともに、学内各所へのルーター増設など無線LAN環境を整備し、効率的な学習の基盤づくりと教務活動の利便性向上を推進した。(No. 126)

(4) 課題とする項目

- ハラスメントの再発防止に向け、学生及び教職員を対象としたWebアンケートの実施や意識啓発等に取り組む一方で、懲戒処分に至るハラスメント事案の発生や、研修の受講率の継続的な低下など、学内全体の危機感の希薄化が見受けられる。誰一人取り残さない社会の担い手を育成する教育機関において、教職員一人一人が常に緊張感を持って、ハラスメントの防止を徹底されたい。(No. 137)

[参考]小項目評価の集計結果

	評価対象 項目数	A 計画を 上回って実施	B 計画を 十分に実施	C 計画を十分には 実施していない	D 計画を 大幅に下回る
1 施設・設備	3	0	3	0	0
2 安全管理・ 防災対策	9	0	9	0	0
3 人権尊重・ 社会的責任	4	0	3	1	0
合計	16	0	15 (93.7%)	1 (6.3%)	0

業務実績評価集計表(令和2年度)

区分		評価対象 項目数	A 計画を 上回って実施	B 計画を 十分に実施	C 計画を十分には 実施していない	D 計画を 大幅に下回る
教育 研究 等	教育	46	3	43	0	0
	学生支援	19	1	18	0	0
	研究	11	0	11	0	0
	地域貢献	11	1	10	0	0
	グローバル化	9	1	8	0	0
	合 計	96	6 (6.3%)	90 (93.7%)	0	0
法人経営		24	0	24 (100.0%)	0	0
自己点検		6	0	6 (100.0%)	0	0
その他		16	2 (12.5%)	14 (87.5%)	0	0
総 合 計		142	8 (5.6%)	134 (94.4%)	0	0

業務実績評価集計表(令和3年度)

区分		評価対象 項目数	A 計画を 上回って実施	B 計画を 十分に実施	C 計画を十分には 実施していない	D 計画を 大幅に下回る
教育 研究 等	教育	46	2	43	1	0
	学生支援	19	3	16	0	0
	研究	11	0	11	0	0
	地域貢献	11	0	11	0	0
	グローバル化	9	2	7	0	0
	合 計	96	7 (7.3%)	88 (91.7%)	1 (1.0%)	0
法人経営		24	0	24 (100.0%)	0	0
自己点検		6	0	6 (100.0%)	0	0
その他		16	0	15 (93.7%)	1 (6.3%)	0
総 合 計		142	7 (4.9%)	133 (93.7%)	2 (1.4%)	0